

第4回図書館協議会（29.3.23）

平成28年度2月議会報告

*代表質問・総括質問（平成29年2月15日から17日まで）

公正と法 上畠寛弘議員

・図書館の使命について、現在の鎌倉市の図書館の課題と解決策について、図書館の自由に関する宣言とユネスコ公共図書館宣言について、子どもたちの読書習慣の育成について、学校図書室と図書館の連携強化について、口述による伝承について、視覚障害者向けの図書の現状と充実に関する方針について、図書館としてレファレンス機能の強化を如何に展開すべきかについての質問があり、図書館の使命については、「図書館の使命は、「知る自由」を保障することであり、そのために、適切に資料を収集・管理・保存し、提供する環境を整えることが大きな役割と考える。」と回答した。現在の鎌倉市の図書館の課題と解決策については、「鎌倉市の図書館の課題は3点あり、1点目は施設の老朽化と狭隘化であり、解決策としては、公共施設再編計画の中で位置づけを確認しながら必要な措置を講じていく。2点目は知識・技術の継承の問題であり、解決策としては、レファレンス記録をデータベース化し、システム上での共有や研修などを行っていく。3点目は資料の保存の問題であり、解決策としては、図書館振興基金の活用や各種補助金の活用を考えていく。」と回答した。図書館の自由に関する宣言とユネスコ公共図書館宣言については、「図書館の自由に関する宣言は図書館の使命と重なるものであると考え、その精神は、鎌倉市図書館資料管理方針にも反映している。」と回答した。子どもたちの読書習慣の育成については、「おはなし会の開催や子ども読書パックの利用等により読書習慣の育成が図られている。」と回答した。学校図書室と図書館の連携強化については、「学校図書室の職員への研修や学校貸出により連携強化につながっている。」と回答した。口述による伝承については、「近代史資料担当が行っており、関東大震災による被害状況等の伝承や昭和初期からの長谷新宿等の伝承聞き取りも機会を設けて行っている。」と回答した。視覚障害者向けの図書の現状と充実に関する方針については、「利用による劣化が少ないデイジーを充実させるとともに、高齢者等を含めた利用のためにも大活字図書も充実させていく。」と回答した。図書館としてレファレンス機能の強化を如何に展開すべきについては、「暮らしに役立つ資料や地域研究のための資料を収集することと、資料を知り、利用者のニーズを的確に把握できる職員を育成することである。」と回答した。

*教育こどもみらい常任委員会（平成29年2月20日）

図書館から「横浜市との図書館相互利用の実施について」報告し、それに関して審議

された。

鎌倉夢プロジェクトの会 高橋浩司議員

・全県で、どこの図書館でも借りられるという形の協議は行われているのかとの質問があり、各市の図書館システムが異なるので、借りた本は借りた市に返すという形になる。全県に拡大する場合、物流システムなどを構築していかなければならないため困難な部分がある。マイナンバーカードの実証実験等も注視していきたいと回答した。

鎌倉みらい 前川綾子議員

・広域になることはよいが、課題はないのかとの質問があり、鎌倉市の場合、横浜市と境を接している大船図書館の利用が増えてくるかと思うと回答した。

無所属 千一議員

・鎌倉でリクエストした本が横浜にあるのならそれを借りられると便利だと思うがとの質問があり、横浜市の本を鎌倉市の図書館を通して借りることは可能であるが、県を通して横浜市から借りるようになるので1か月ほどかかってしまうと回答した。

無所属 竹田ゆかり議員

・すでに実施している藤沢市、逗子市との広域利用と今回の横浜市との広域利用との違いはあるのかとの質問があり、藤沢市と三浦ブロックの場合は予約することができるが、横浜市の場合は予約できないと回答した。

以上の質疑ののち、「横浜市との図書館相互利用の実施について」の報告事項は了承された。

*平成 29 年度鎌倉市一般会計予算等審査特別委員会（平成 29 年 3 月 8 日）

神奈川ネットワーク運動・鎌倉 三宅真理議員

・一般の図書資料費が前年と比較して少なくなっているようだが、積算の基準みたいなのはあるのかとの質問があり、特に積算の基準はないが、今後、図書資料費が減額にならないように努めていきたいと回答した。